

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400606	事業の開始年月日	令和1年5月1日
		指定年月日	令和1年5月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎稲田堤		
所在地	(〒 214-0008) 神奈川県川崎市多摩区菅北浦3-3-18		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	27 名
		ユニット数	3 ユニット
自己評価作成日	令和 5年12月12日	評価結果 市町村受理日	令和6年2月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	k-inadazutsumi@mimoza-care
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心・安全・信頼・満足・感動をご入居者、ご家族に提供できるようなGHであること。また、役割や生きがいを持つ認知症による生活の支障を減らし、自分でわかること、できる事を増やすケアを心掛け、個人個人の有する能力を正確に見極め、必要かつ十分な支援を行っていくこと。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年1月20日	評価機関 評価決定日	令和6年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇食の楽しみを支援

- ・食事は3食とも職員が手作りしている。利用者は調理の音やにおいを楽しみにして、モヤシのひげ根とりや盛り付けをできる範囲で手伝っている。
- ・食後の30分は居室で休憩することで、利用者は落ち着いて一人の時間を過ごしている。怒りっぽい人も怒るのを忘れ穏やかになっている。
- ・誕生日にはコロッケや豚汁など利用者の食べたいものを提供している。おはぎやパンケーキ等のおやつを利用者が作るなど、食の楽しみを支援している。

◇利用者を見守りながら自立支援

- ・利用者の人格を尊重し、手助けをし過ぎず、自立を優先している。職員は「～して下さい」と声をかけて、注意深く見守るように心がけている。
- ・利用者一人ひとりのニーズや特性を理解し、能力を見極めた上で、利用者に寄り添った支援に努めている。利用者が「トイレ」と声に出せるようになり、さらにムース食から普通食に改善した例がある。

【事業所が工夫している点】

◇「お散歩チェック表」で外出をチェック

- ・職員の提案で作成した「お散歩チェック表」を使用している。散歩や外気浴、買物に出かけた日時が一目でわかる。天気が良く風がない日はできるだけ利用者が外出できるよう支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	ハナミズキ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、施設の理念に基づき、職場30分研修のほか、社内総合研修所主催の研修への参加、全社内での事例ケア発表会を定期的開催。他施設との取り組み方法の違いなど学ぶ機会がある。	・事業所の理念「高齢者の幸せな暮らしに貢献する。その人らしさを大切に支援する。笑顔、思いやりを大切にチームケアをおこなう」を各階事務室に掲示して共有している。 ・職員は報告、連絡、相談に努めてチームケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や近隣施設主催行事への参加や、運営推進会議の開催（コロナ禍だったため、今期後半より開催再開）を順次交流を増やしていく。	・地域包括支援センターのレクリエーションに参加している。 ・地域の老人会の会場として、地域交流室を提供している。 ・フラダンスのボランティアに訪問を依頼し、1月には家族とともに音楽や踊りを楽しむ予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍だったため、今期後半より再開。地域包括、自治会、民生委員、ご家族の参加。事故報告、行事、今後の予定、施設内での出来事について報告。意見交換と情報共有を行い、参加されなかった方々には、封書でお知らせ。	・運営推進会議を2か月に1度開催し、地域包括支援センター職員、自治会会長、民生委員、家族が参加している。 ・会議では与薬もれや転倒事故などの報告をして、対処方法や再発防止策を話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて、他ホームの管理者や職員とリモートで交流。	・区には、料金滞納を相談したり、家族が遠方に暮らしている利用者の緊急時対応の心配を相談している。区から研修の案内が届き、参加することもある。 ・グループホーム連絡会にはリモートで参加し、情報交換している。	・運営推進会議議事録を区担当課へ提出することが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修を2か月毎に実施し、身体拘束に対する認識と、現在拘束ゼロであるが、今後あり得る拘束に対しての対策と、方法の情報共有を行っている。	・身体拘束適正化対策検討委員会を2か月に1回開催し、議事録を回覧している。 ・研修を年6回行い、何が拘束になるかを学び、身体拘束をしないよう取り組んでいる。職員はベッド柵の位置や数、スピーチロックに気を付けている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修のテーマの1つとして実施し、ご入居者様ご家族はもちろん、働く側の働きやすい環境へも配慮を行っている。	・研修を年6回行い、虐待の防止に努めている。 ・「虐待・身体拘束チェック表」や「自己点検シート」を使い職員の虐待への認識を確認している。 ・管理者はストレスを溜めている職員から話を聞くようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得て、ご家族より、相談を受けた場合、制度を利用できるような体制を組んでいる。30分研修・社内総合研修などで、権利擁護の制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面と入念な説明を行い、入居までには、ある程度の期間を設け、納得してご入居できるよう対応している。また、解約時も同様である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、月1回生活状況報告書への返信、半年に1度家族会の実施（来年より実施予定）外部評価によるアンケート、ケアプラン作成後のご入居者、ご家族への意向の聴取、また、契約締結時には、苦情相談機関の説明も行っている。	・家族からは面会時や運営推進会議で話を聞いたり、生活状況報告書に返信をもらったりしている。 ・「活動的に」という要望で、散歩等をケアプランに反映している。 ・多動な利用者への対策として、家族から対応の成功例を教わった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の実施、個人面談、毎日の引継ぎの時間を利用し、職員同士の意見交換を行い、コミュニケーションを図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は日常の会話や会議、個人面談で職員の意見を聞いている。 ・提案内容によってはフロアごとの職員間で議論し決めている。 ・職員提案で「お散歩チェック表」を作成し、利用者の散歩や外気浴が確実にできるようになった。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は、いつでも閲覧できるようにしている。人数体制が厳しい時など、全員が協力し合い、また、思いやりを持ち、配慮を行っている。ほか、個々の特性を理解し、役割を担っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者研修や実践者研修などの資格取得には、費用を全額負担して支援している。 ・子育て中の職員には勤務日数を減らして働きやすくしている。外国人職員には長期休暇を認め、故郷で過ごせるよう配慮している。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所、GH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し、参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入社員のOJTを実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員は、エルダー社員制度により、3か月間エルダー社員からOJTでケア技術を学んでいる。 ・「30分研修」の講師を職員が輪番で勤めている。業務の一部を担当することで手当が支給されるアロー制度を設け、職員のステップアップを支援している。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他のホームの管理者や職員とリモートにて交流。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、他施設や支援事業者より、情報を収集。その後、実際に、ご本人と面会し、アナムネに沿った会話を交え、コミュニケーションが図れ、安心できるような関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、コミュニケーションが図れるまで、できる限りご同行頂き、モニタリングを実施。不安を取り除くような傾聴を行い、できる限り希望に添えるよう、寄り添った対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設でできること、家族、入居者が望むことを理解し、望むサービスの提供ができるよう、相談、助言等を行い、話し合いを重ねていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活の場に立つ職員として、プライベートな部分への配慮と、少人数の共同生活のため、入居者同士も支えあえる環境作りを行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を維持しながら、職員が間に入ることで、両方の意見を傾聴し、反映させることで、良い関係作りができる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ち着き、家族との面会も以前のように戻りつつある。職員は、定期的に、ご家族には面会のご連絡を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が初詣に行ったり、スーパーでの買物を支援している。 ・家族と墓参りなどの外出や外食、外泊をする利用者もいる。 ・毎月の「お手紙」と2か月に1度の「ミモザ通信」を家族に郵送し、関係継続に努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでは、9人全員が顔を合わせられるような、テーブルセッティングを行い、交流が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、現在の状況などを電話や手紙などで、確認している。また、他施設での、困りごとなどの相談援助を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に入居者の状況把握を行っている。日々コミュニケーションを図り、入居者が話しやすい環境を提供できるようにしている。意向の確認が難しい入居者に関しては、表情の確認を行いながら実施している。	・職員は利用者との会話や仕草、表情から思いや意向を把握している。把握した内容は試してみて、見極めるようにしている。 ・これまで使っている薬が欲しい、手紙を書く筆記用具が欲しいという要望で、一緒に買物に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけにとらわれず、ご家族や、全施設に問い合わせを行ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切に、常に疑問を持ち、職員間での情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的実施し、サービス内容の検討を行っている。意見は随時サービスに反映し、ご本人に見合っているかなどの検討も会議だけではなく、毎日の中で意見交換を行い、計画に反映させている。	・介護計画の有効期限は6か月または1年で、介護度の変更やヒヤリハットに応じて随時見直している。 ・モニタリングを3か月ごとに行い、サービス担当者会議では、利用者一人ひとりの状態を確認して計画の見直しを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員個々に介護計画を確認し、計画に沿った支援を実施している。毎日の引継ぎなどで、気づきや、様子を報告し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせた対応ができるよう、緊急時の対応など、随時ミーティングや個別指導を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに関しては、来年度より実施していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医の医療の連携により、月2回の訪問指導、随時緊急時の対応も実施しており、迅速に対応して頂いている。	・協力内科医は月2回の訪問診療を行っている。歯科医は2週間に1回、看護師は週1回訪問している。 ・マッサージは希望者に対して、週2回訪問している。 ・通院は、原則家族が付き添い、事業所に結果を報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の相談指導がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかにサマリーの作成を実施。また、入院中は、随時ご家族、入院先への連絡をとり、退院時への対応も迅速に対応できている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送に関する同意書をご提出いただき、終末期など、ご家族や入居者の希望に添えるよう、医療機関などの連携も含め全職員が対応できるよう個別指導等を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に、重度化と看取りに関する事業所指針を説明している。 ・重度化した場合は、家族、医師、看護師、事業所間で連携して対応している。 ・看取りの研修は、管理者が中心となって職員に個別指導している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにより、全職員が対応できるよう、定期的な研修と個別指導を実施。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練の実施。入居者の避難誘導、消防署への通達方法、初期消火活動の実施。地域防災訓練には不参加であるが、災害時の協力依頼は可能。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含めて、年2回防災訓練をしている。水害対策で3階への垂直避難も年1回訓練している。 ・食糧、飲料水の備蓄は3日分、および防災備品も備えている。 ・緊急時、施設に10分以内に来れる職員が2名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の一覧表を作成し、消味期限を記載して管理することが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで生きてきた思いや、生活を大切に、寄り添った対応を心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が整備している「プライバシー保護に関する研修教材」にて、月1回の全体会議で研修している。 ・不適切な対応があった場合は、その都度フロア会議で確認している。 ・職員は事業所内のことを外で話さないよう注意している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位な考えや、思い込みはせず、入居者の立場に立った視点から、自己決定を行いやすい環境作りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、個々の持っている個性を見極め、入居者のペースに合わせた支援を心掛ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、起床時には整容時間を設け、介入が必要な場合は、職員側で対応している。保湿は随時クリームを使用し、女性は個々に、洗顔料や、化粧水など使用されている。半年に1回理美容の実施で、希望者はカラーも行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時だけでなく、定期的なメニューの変更で、希望に沿ったお食事の提供を行っている。おやつも手作りの時も設けている。また、季節に沿ったお食事の提供も心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康維持に必要と食事に特に力を入れ、3食を職員が調理している。 ・利用者は調理の音やにおいを楽しみにして、できる範囲で盛り付けなどを手伝っている。 ・行事食や特別食として、おでん、コロッケ、豚汁等を提供している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の状態を毎食・毎日チェック表に記入。水分に関しては、嚥下の状態を考慮したり、食事量の低下時は、高栄養ドリンクなどで、カロリーバランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立者でも、確認を実施し、義歯の状態の確認も併せて行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位が厳しい入居者でも、自尿がある場合はトイレ誘導を実施している。随時排泄状況の検討を行い、アイテムの変更などを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表にて一人ひとりのパターンを把握し、日中も夜間もトイレ誘導している。 ・職員は、手助けをし過ぎず自立を優先し、見守りと確認をしている。 ・おむつ使用からリハビリパンツに改善した利用者がいる。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り下剤を使用せず、食物繊維や牛乳などで、対応行っている。 -2.3日程度で、排便コントロール行えるよう下剤の併用もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人20分を目安に、入浴を実施している。その日の体調に合わせて、シャワー浴での対応も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の入浴を基本としている。 ・利用者の状況に応じて機械浴としている。 ・柚子湯や菖蒲湯、職員との会話や歌で利用者は入浴を楽しんでいる。 ・浴室と脱衣所は暖房によりヒートショック対策をしている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、フロアーや居室でテレビを見たり、居室で休まれたり、個々の生活スタイルに応じた対応をしている。夜間の不眠者には、訪問医との相談の上、眠剤の服用を検討したり、逆に不必要になる場合もあり、都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日により状態が変化する場合もあり、いろんな視点から観察が必要であるため、常に職員間での情報共有が必要となっている。また、変更希望時には、訪問医と相談の上、変更または追加処方など行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々によりできることが違うため、個々に応じた対応を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも落ち着いたため、ご家族には、なるべく時間を作り外出頂けるよう、お勧めしている。	・利用者は、天気の良い日には職員と近隣の公園に散歩に出かけている。家族と一緒に出かける利用者もいる。 ・食べたいものや欲しい物があれば、利用者が買い物に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナも落ち着いたため、時期を見て温かくなるころ、散歩がてらに、買い物を試みていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、家族との連絡ができるよう対応している。手紙やはがきは、希望される様であれば、ポストへの投函を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアや共用部の廊下など、必要以上なものは設置せず、随時環境整備を行っている。季節に応じフロアの模様替えを行い、入居者には、季節感を味わっていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔を第一に対応して、事業所内は清掃が行き届いている。 ・リビングや居室の温度、湿度は、職員が調整している。 ・リビングには季節を感じるように、利用者と職員が一緒に作った折り紙を飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部は、テーブルを全員で囲うように席を配置している。移動も自身で行いやすいよう、車いすでも十分なスペースを確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、事前に、馴染みのあるものをご持参いただくようお願いし、入居時にご持参いただいている。入居者の居室は、個性あふれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、エアコンやベッド、チェスト、クローゼット、ナースコールを備え付けている。 ・利用者は仏壇や使い慣れたテレビなどを持ち込んでいる。 ・家族了解のもと、必要に応じて立ち上がりセンサーを設置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のそれぞれできることを理解したうえで、無理強いせず、少しでも自身で行えるよう支援している。		

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	モモ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、施設の理念に基づき、職場30分研修のほか、社内総合研修所主催の研修への参加、全社内での事例ケア発表会を定期的開催。他施設との取り組み方法の違いなど学ぶ機会がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や近隣施設主催行事への参加や、運営推進会議の開催（コロナ禍だったため、今期後半より開催再開）を順次交流を増やしていく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍だったため、今期後半より再開。地域包括、自治会、民生委員、ご家族の参加。事故報告、行事、今後の予定、施設内での出来事について報告。意見交換と情報共有を行い、参加されなかった方々には、封書でお知らせ。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて、他ホームの管理者や職員とリモートで交流。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修を2か月毎に実施し、身体拘束に対する認識と、現在拘束ゼロであるが、今後あり得る拘束に対しての対策と、方法の情報共有を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修のテーマの1つとして実施し、ご入居者様ご家族はもちろん、働く側の働きやすい環境へも配慮を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得て、ご家族より、相談を受けた場合、制度を利用できるような体制を組んでいる。30分研修・社内総合研修などで、権利擁護の制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面と入念な説明を行い、入居までには、ある程度の期間を設け、納得してご入居できるよう対応している。また、解約時も同様である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、月1回生活状況報告書への返信、半年に1度家族会の実施（来年より実施予定）外部評価によるアンケート、ケアプラン作成後のご入居者、ご家族への意向の聴取、また、契約締結時には、苦情相談機関の説明も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の実施、個人面談、毎日の引継ぎの時間を利用し、職員同士の意見交換を行い、コミュニケーションを図っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は、いつでも閲覧できるようにしている。人数体制が厳しい時など、全員が協力し合い、また、思いやりを持ち、配慮を行っている。ほか、個々の特性を理解し、役割を担っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所、GH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し、参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入社員のOJTを実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他のホームの管理者や職員とリモートにて交流。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、他施設や支援事業者より、情報を収集。その後、実際に、ご本人と面会し、アナムネに沿った会話を交え、コミュニケーションが図れ、安心できるような関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、コミュニケーションが図れるまで、できる限りご同行頂き、モニタリングを実施。不安を取り除くような傾聴を行い、できる限り希望に添えるよう、寄り添った対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設でできること、家族、入居者が望むことを理解し、望むサービスの提供ができるよう、相談、助言等を行い、話し合いを重ねていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活の場に立つ職員として、プライベートな部分への配慮と、少人数の共同生活のため、入居者同士も支えあえる環境作りを行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を維持しながら、職員が間に入ることで、両方の意見を傾聴し、反映させることで、良い関係作りができる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ち着き、家族との面会も以前のように戻りつつある。職員は、定期的に、ご家族には面会のご連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでは、9人全員が顔を合わせられるような、テーブルセッティングを行い、交流が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、現在の状況などを電話や手紙などで、確認している。また、他施設での、困りごとなどの相談援助を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に入居者の状況把握を行っている。日々コミュニケーションを図り、入居者が話しやすい環境を提供できるようにしている。意向の確認が難しい入居者に関しては、表情の確認を行いながら実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけにとらわれず、ご家族や、全施設に問い合わせを行ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切にし、常に疑問を持ち、職員間での情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的実施し、サービス内容の検討を行っている。意見は随時サービスに反映し、ご本人に見合っているかなどの検討も会議だけではなく、毎日の中で意見交換を行い、計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員個々に介護計画を確認し、計画に沿った支援を実施している。毎日の引継ぎなどで、気づきや、様子を報告し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせた対応ができるよう、緊急時の対応など、随時ミーティングや個別指導を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに関しては、来年度より実施していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医の医療の連携により、月2回の訪問指導、随時緊急時の対応も実施しており、迅速に対応して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の相談指導がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかにサマリーの作成を実施。また、入院中は、随時ご家族、入院先への連絡をとり、退院時への対応も迅速に対応できている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送に関する同意書をご提出いただき、終末期など、ご家族や入居者の希望に添えるよう、医療機関などの連携も含め全職員が対応できるよう個別指導等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにより、全職員が対応できるよう、定期的な研修と個別指導を実施。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練の実施。入居者の避難誘導、消防署への通達方法、初期消火活動の実施。地域防災訓練には不参加であるが、災害時の協力依頼は可能。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで生きてきた思いや、生活を大切にし、寄り添った対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位な考えや、思い込みはせず、入居者の立場に立った視点から、自己決定を行いやすい環境作りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、個々の持っている個性を見極め、入居者のペースに合わせた支援を心掛ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、起床時には整容時間を設け、介入が必要な場合は、職員側で対応している。保湿は随時クリームを使用し、女性は個々に、洗顔料や、化粧水など使用されている。半年に1回理美容の実施で、希望者はカラーも行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時だけでなく、定期的なメニューの変更で、希望に沿ったお食事の提供を行っている。おやつも手作りの時も設けている。また、季節に沿ったお食事の提供も心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の状態を毎食・毎日チェック表に記入。水分に関しては、嚥下の状態を考慮したり、食事量の低下時は、高栄養ドリンクなどで、カロリーバランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立者でも、確認を実施し、義歯の状態の確認も併せて行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位が厳しい入居者でも、自尿がある場合はトイレ誘導を実施している。随時排泄状況の検討を行い、アイテムの変更などを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り下剤を使用せず、食物繊維や牛乳などで、対応行っている。 -2.3日程度で、排便コントロール行えるよう下剤の併用もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人20分を目安に、入浴を実施している。その日の体調に合わせて、シャワー浴での対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、フロアや居室でテレビを見たり、居室で休まれたり、個々の生活スタイルに応じた対応をしている。夜間の不眠者には、訪問医との相談の上、眠剤の服用を検討したり、逆に不必要になる場合もあり、都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日により状態が変化する場合もあり、いろんな視点から観察が必要であるため、常に職員間での情報共有が必要となっている。また、変更希望時には、訪問医と相談の上、変更または追加処方など行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々によりできることが違うため、個々に応じた対応を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも落ち着いたため、ご家族には、なるべく時間を作り外出頂けるよう、お勧めしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナも落ち着いたため、時期を見て温かくなるころ、散歩がてらに、買い物を試みていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、家族との連絡ができるよう対応している。手紙やはがきは、希望される様であれば、ポストへの投函を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーや共用部の廊下など、必要以上なものは設置せず、随時環境整備を行っている。季節に応じフロアーの模様替えを行い、入居者には、季節感を味わっていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部は、テーブルを全員で囲うように席を配置している。移動も自身で行いやすいよう、車いすでも十分なスペースを確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、事前に、馴染みのあるものをご持参いただくようお願いし、入居時にご持参いただいている。入居者の居室は、個性あふれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のそれぞれできることを理解したうえで、無理強いせず、少しでも自身で行えるよう支援している。		

事業所名	ミモザ川崎稲田堤
ユニット名	スマイレ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人、施設の理念に基づき、職場30分研修のほか、社内総合研修所主催の研修への参加、全社内での事例ケア発表会を定期的に行う。他施設との取り組み方法の違いなど学ぶ機会がある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や近隣施設主催行事への参加や、運営推進会議の開催（コロナ禍だったため、今期後半より開催再開）を順次交流を増やしていく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍だったため、今期後半より再開。地域包括、自治会、民生委員、ご家族の参加。事故報告、行事、今後の予定、施設内での出来事について報告。意見交換と情報共有を行い、参加されなかった方々には、封書でお知らせ。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会にて、他ホームの管理者や職員とリモートで交流。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職場30分研修を2か月毎に実施し、身体拘束に対する認識と、現在拘束ゼロであるが、今後あり得る拘束に対しての対策と、方法の情報共有を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場30分研修のテーマの1つとして実施し、ご入居者様ご家族はもちろん、働く側の働きやすい環境へも配慮を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書物などで知識を得て、ご家族より、相談を受けた場合、制度を利用できるような体制を組んでいる。30分研修・社内総合研修などで、権利擁護の制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面と入念な説明を行い、入居までには、ある程度の期間を設け、納得してご入居できるよう対応している。また、解約時も同様である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、月1回生活状況報告書への返信、半年に1度家族会の実施（来年より実施予定）外部評価によるアンケート、ケアプラン作成後のご入居者、ご家族への意向の聴取、また、契約締結時には、苦情相談機関の説明も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の実施、個人面談、毎日の引継ぎの時間を利用し、職員同士の意見交換を行い、コミュニケーションを図っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は、いつでも閲覧できるようにしている。人数体制が厳しい時など、全員が協力し合い、また、思いやりを持ち、配慮を行っている。ほか、個々の特性を理解し、役割を担っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内総合研修所、GH連絡会、協力医療機関等主催の研修の情報を提供し、参加を促している。また、エルダー社員制度により、新入社員のOJTを実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会にて他のホームの管理者や職員とリモートにて交流。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、他施設や支援事業者より、情報を収集。その後、実際に、ご本人と面会し、アナムネに沿った会話を交え、コミュニケーションが図れ、安心できるような関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前より、コミュニケーションが図れるまで、できる限りご同行頂き、モニタリングを実施。不安を取り除くような傾聴を行い、できる限り希望に添えるよう、寄り添った対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設でできること、家族、入居者が望むことを理解し、望むサービスの提供ができるよう、相談、助言等を行い、話し合いを重ねていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活の場に立つ職員として、プライベートな部分への配慮と、少人数の共同生活のため、入居者同士も支えあえる環境作りを行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を維持しながら、職員が間に入ることで、両方の意見を傾聴し、反映させることで、良い関係作りができる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が落ち着き、家族との面会も以前のように戻りつつある。職員は、定期的に、ご家族には面会のご連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでは、9人全員が顔を合わせられるような、テーブルセッティングを行い、交流が持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、現在の状況などを電話や手紙などで、確認している。また、他施設での、困りごとなどの相談援助を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に入居者の状況把握を行っている。日々コミュニケーションを図り、入居者が話しやすい環境を提供できるようにしている。意向の確認が難しい入居者に関しては、表情の確認を行いながら実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけにとらわれず、ご家族や、全施設に問い合わせを行ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切にし、常に疑問を持ち、職員間での情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的実施し、サービス内容の検討を行っている。意見は随時サービスに反映し、ご本人に見合っているかなどの検討も会議だけではなく、毎日の中で意見交換を行い、計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員個々に介護計画を確認し、計画に沿った支援を実施している。毎日の引継ぎなどで、気づきや、様子を報告し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせた対応ができるよう、緊急時の対応など、随時ミーティングや個別指導を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに関しては、来年度より実施していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医の医療の連携により、月2回の訪問指導、随時緊急時の対応も実施しており、迅速に対応して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の相談指導がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかにサマリーの作成を実施。また、入院中は、随時ご家族、入院先への連絡をとり、退院時への対応も迅速に対応できている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、救急搬送に関する同意書をご提出いただき、終末期など、ご家族や入居者の希望に添えるよう、医療機関などの連携も含め全職員が対応できるよう個別指導等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにより、全職員が対応できるよう、定期的な研修と個別指導を実施。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練の実施。入居者の避難誘導、消防署への通達方法、初期消火活動の実施。地域防災訓練には不参加であるが、災害時の協力依頼は可能。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで生きてきた思いや、生活を大切にし、寄り添った対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位な考えや、思い込みはせず、入居者の立場に立った視点から、自己決定を行いやすい環境作りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、個々の持っている個性を見極め、入居者のペースに合わせた支援を心掛ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、起床時には整容時間を設け、介入が必要な場合は、職員側で対応している。保湿は随時クリームを使用し、女性は個々に、洗顔料や、化粧水など使用されている。半年に1回理美容の実施で、希望者はカラーも行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時だけでなく、定期的なメニューの変更で、希望に沿ったお食事の提供を行っている。おやつも手作りの時も設けている。また、季節に沿ったお食事の提供も心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の状態を毎食・毎日チェック表に記入。水分に関しては、嚥下の状態を考慮したり、食事量の低下時は、高栄養ドリンクなどで、カロリーバランスを図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立者でも、確認を実施し、義歯の状態の確認も併せて行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位が厳しい入居者でも、自尿がある場合はトイレ誘導を実施している。随時排泄状況の検討を行い、アイテムの変更などを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り下剤を使用せず、食物繊維や牛乳などで、対応行っている。 -2.3日程度で、排便コントロール行えるよう下剤の併用もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人20分を目安に、入浴を実施している。その日の体調に合わせ、シャワー浴での対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、フロアーや居室でテレビを見たり、居室で休まれたり、個々の生活スタイルに応じた対応をしている。夜間の不眠者には、訪問医との相談の上、眠剤の服用を検討したり、逆に不必要になる場合もあり、都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日により状態が変化する場合もあり、いろんな視点から観察が必要であるため、常に職員間での情報共有が必要となっている。また、変更希望時には、訪問医と相談の上、変更または追加処方など行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々によりできることが違うため、個々に応じた対応を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも落ち着いたため、ご家族には、なるべく時間を作り外出頂けるよう、お勧めしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナも落ち着いたため、時期を見て温かくなるころ、散歩がてらに、買い物を試みていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、家族との連絡ができるよう対応している。手紙やはがきは、希望される様であれば、ポストへの投函を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアールや共用部の廊下など、必要以上なものは設置せず、随時環境整備を行っている。季節に応じフロアールの模様替えを行い、入居者には、季節感を味わっていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部は、テーブルを全員で囲うように席を配置している。移動も自身で行いやすいよう、車いすでも十分なスペースを確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、事前に、馴染みのあるものをご持参いただくようお願いし、入居時にご持参いただいている。入居者の居室は、個性あふれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のそれぞれできることを理解したうえで、無理強いせず、少しでも自身で行えるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ川崎稲田堤

作成日 令和 6年 2月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の継続	継続して二ヶ月に一度開催する。	施設内でのコロナ感染者が出ないように環境整備体調管理を行い、職員が持ち込まないように注意喚起行う。	1年
2	2	ボランティアの受け入れ	ボランティアを定期的に受け入れ利用者様の活動領域を増していく。	近隣のボランティア団体への呼びかけ。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。